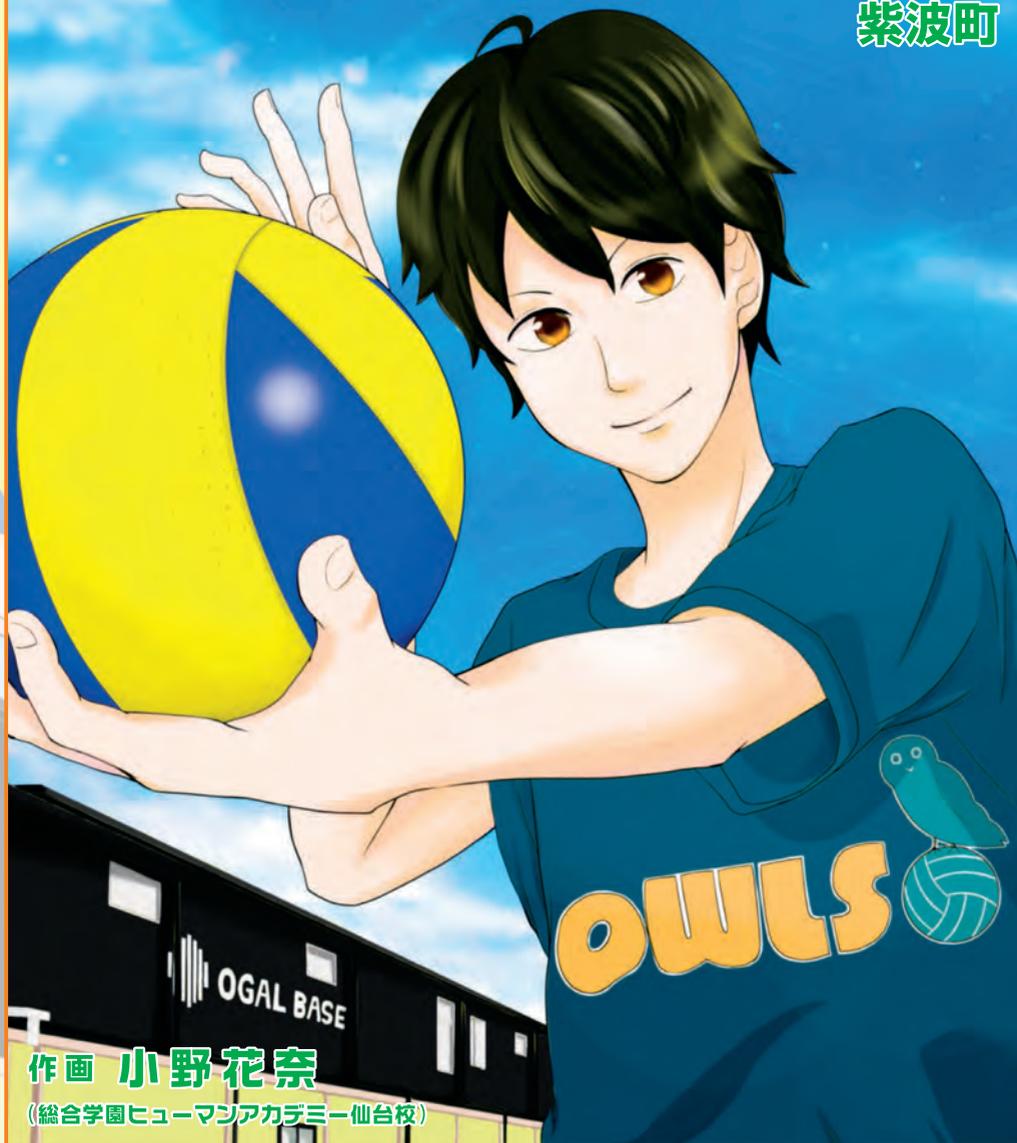


日本初のバレーボール 専用体育館・オガールベース

～スポーツを通じて次世代のリーダーを育てる～

岩手県
紫波町



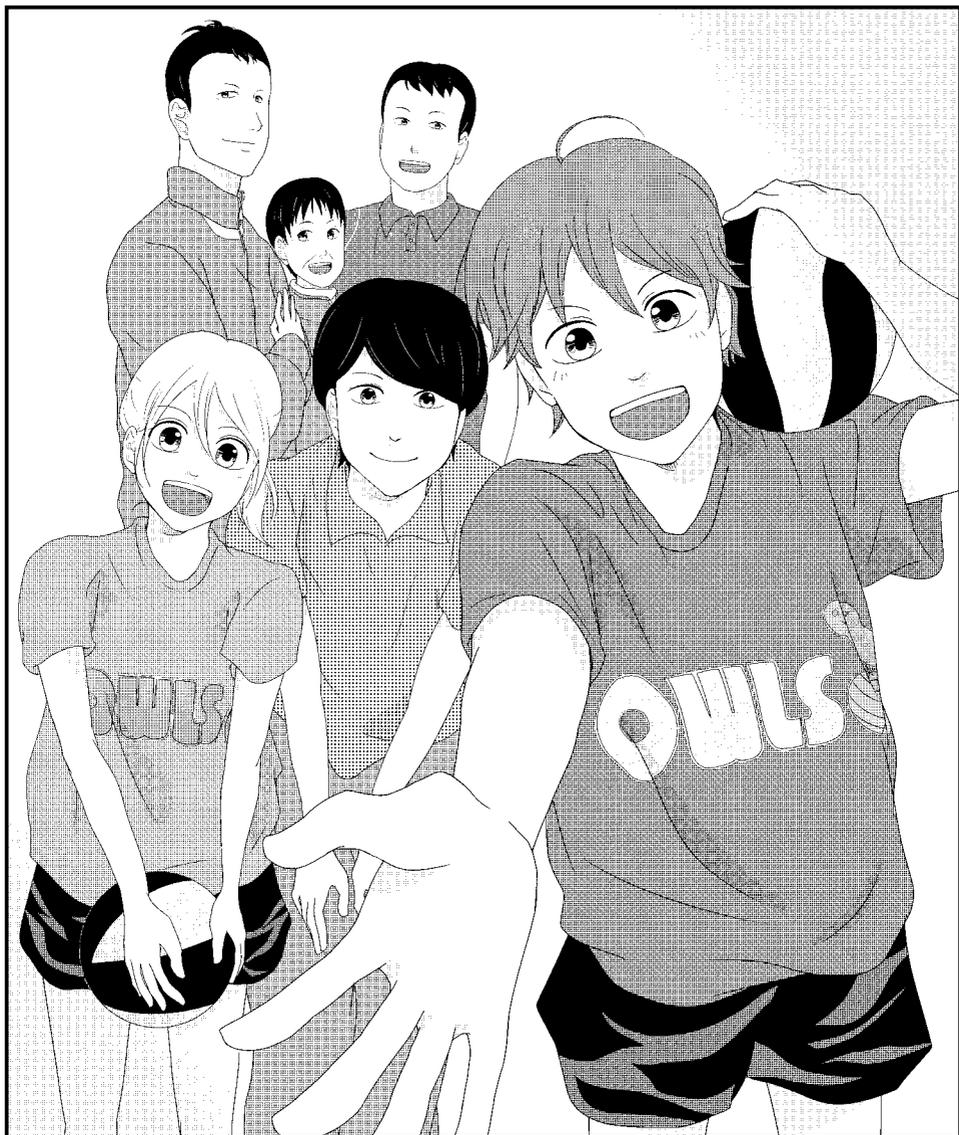
作画 小野花奈

(総合学園ヒューマンアカデミー仙台校)

日本初のバレーボール 専用体育館・オガールベース

～スポーツを通じて次世代のリーダーを育てる～

岩手県紫波町



作画 小野花奈

(総合学園ヒューマンアカデミー仙台校)

ほんさつし せいさくきょうりょく
本冊子の制作協力にあたって

今回スズキは「スポーツによる地域活性化」まんが事例集の制作に協力させていただくことになりました。

地方都市に本社を置く企業として、スポーツによる地域活性化に少しでもお役に立てることを大変うれしく思っております。

スズキの得意とする「軽自動車」を使った「軽トラ市」をご存知ですか？

地域の生産者や商店街が一体となり、「軽トラック」1台1台をお店にし、「活気ある市場」をつくるというこの取り組み。「軽トラ市」には、この本で紹介される「スポーツ」と同じように、地域に元気を生む力があります。

スズキはこれからも「軽トラ市」や「スポーツ」を通して地域を応援していきますので、本冊子をお読みの皆さんも様々な活動を通じて、地域活性化に取り組んでいただければ幸いです。



 SUZUKI



とうじょうじんぶつしょうかい 登場人物紹介



つなしまき こ
綱島久子

ほうじん
NPO 法人アウルズ紫波スポーツアカデミー
のバレーボールコーチ。



おかざきまさのぶ
岡崎正信

すいしんやく
オガールプロジェクトの推進役。



あべみちこ
阿部道子

ほうじん
NPO 法人アウルズ紫波スポーツアカデミー
代表理事。

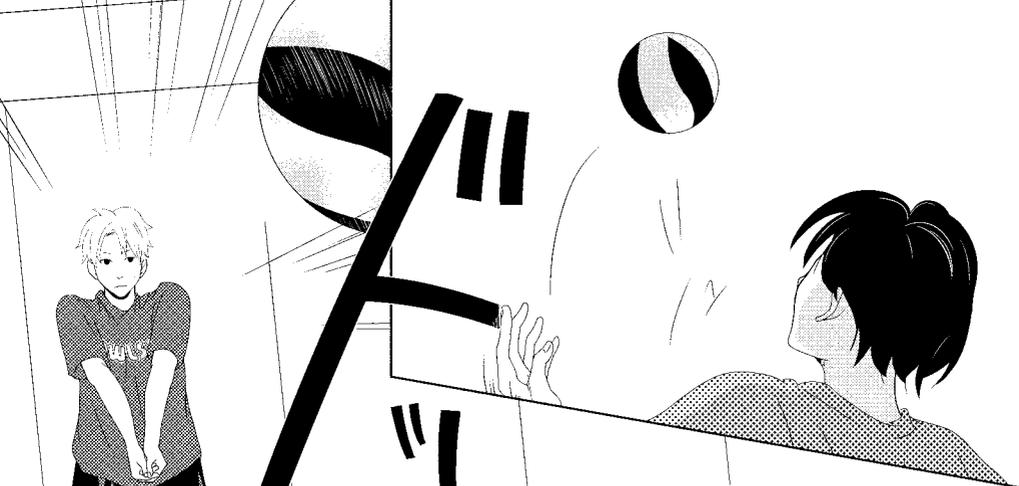


おかざきたかひろ
岡崎希裕

バレーボールクラブチーム
おかざきけんせつ アウルズ かんたく おかざきまさのぶ おとうと
岡崎建設 OWLS 監督。岡崎正信の弟。

もくじ 目次

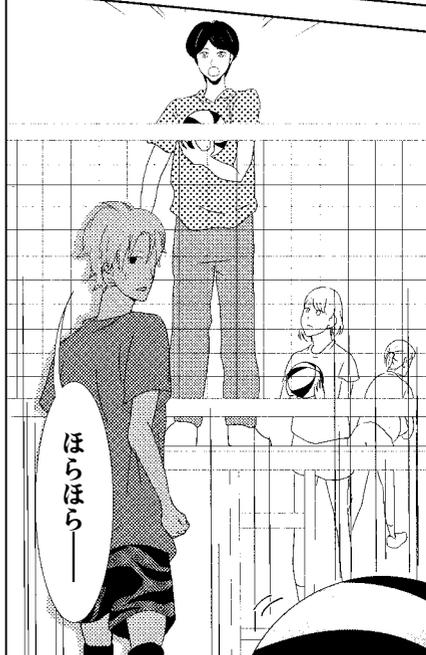
まんが	にほんはつ 日本初のバレーボール専用体育館・オガールベース せんようたいいくかん ～スポーツを通じて次世代のリーダーを育てる～	1
もっと	しろろ オガールプロジェクト	51
1.	いわてけんし 岩手県紫波町とは	52
2.	しわちゅうおうえき 紫波中央駅と町有地	52
3.	とちりょう オガールの土地利用	53
4.	ちほう 地方だからこそ特化する	54
5.	しせつ 施設と一緒に事業も起こす	57
6.	ひと まち人オガール	58



もっと腰おろすー

こんにちはー

*アウルズ紫波スポーツアカデミー
バレーボールコーチ
つなしまひさこ
綱嶋久子



ほらほらー

※紫波町で子供たちを対象にバレーボール教室を実施しているNPO。

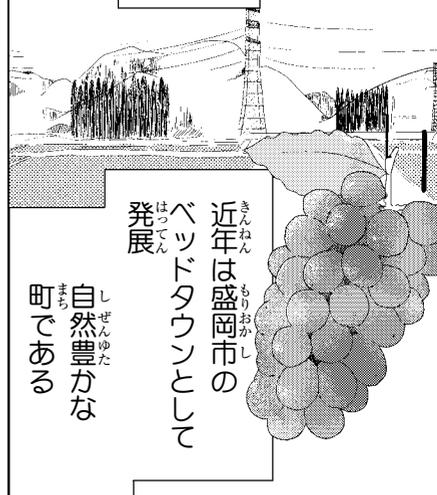
※紫波町の総人口は微減傾向が続いているものの、世帯数はゆるやかに増加している。



そしてー

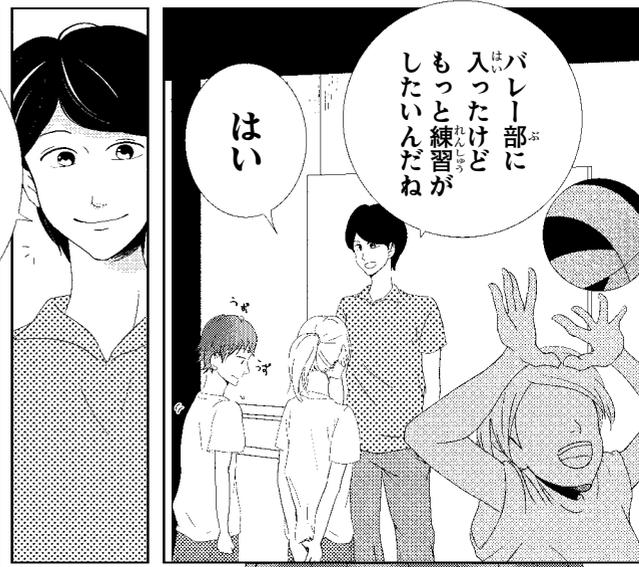
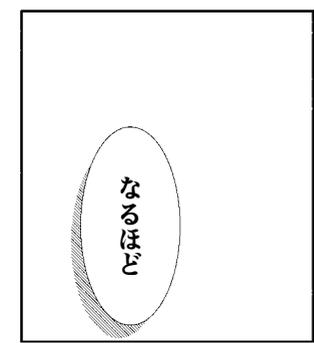


いわてけんしわちやう
岩手県紫波町は
じんぐう
人口約3万3500人
ねんげんざい
(2016年現在)
いわてけん
岩手県のほぼ
ちゆうぐん
中央に位置する



きんねん
近年は盛岡市の
はつてん
ベッドタウンとして
はつてん
発展
しぜんゆた
自然豊かな
まち
町である







オガールって
なんですか!?

ちょっと

ほろっ



関係ない
じゃん!

えい
やっほー!?



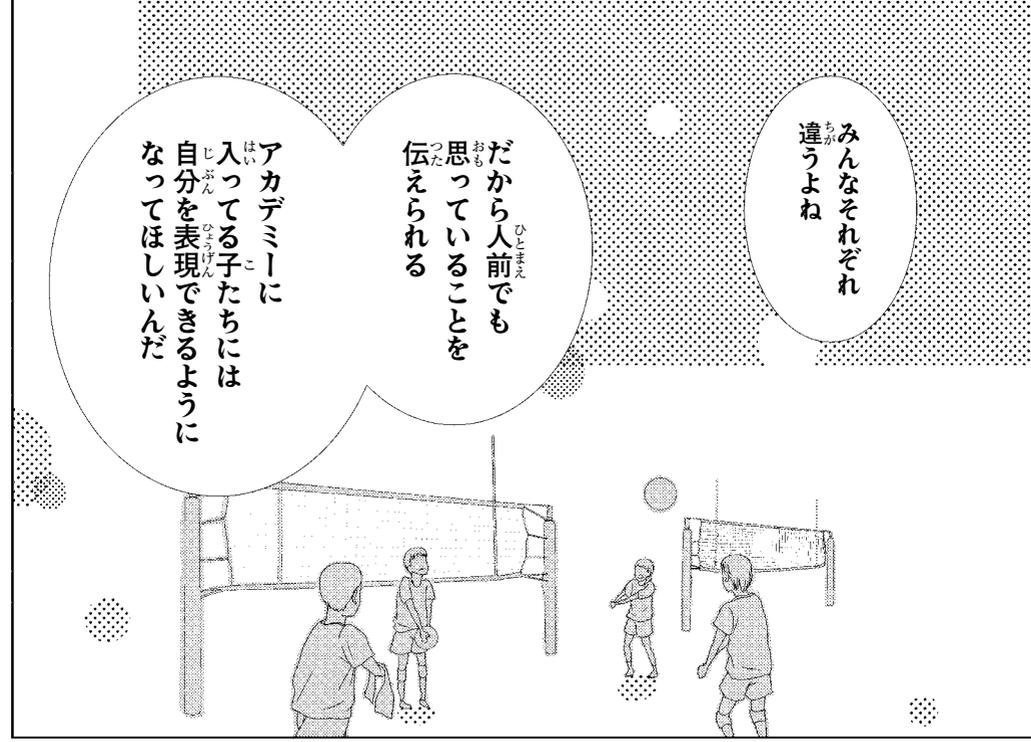
オガールプロジェクト推進役
おかざきまさのぶ

岡崎正信



君...
オガールのこと
知りたいの?

あ
岡崎さん



みんなそれぞれ
違うよね

だから人前でも
思っていることを
伝えられる

アカデミーに
入ってる子たちには
自分を表現できるように
なってほしいんだ



ここ
だけの
話

とにかく

言葉の
キヤッチ
ボールだよ

さっき
飲み込んだじゃった
質問言おう!

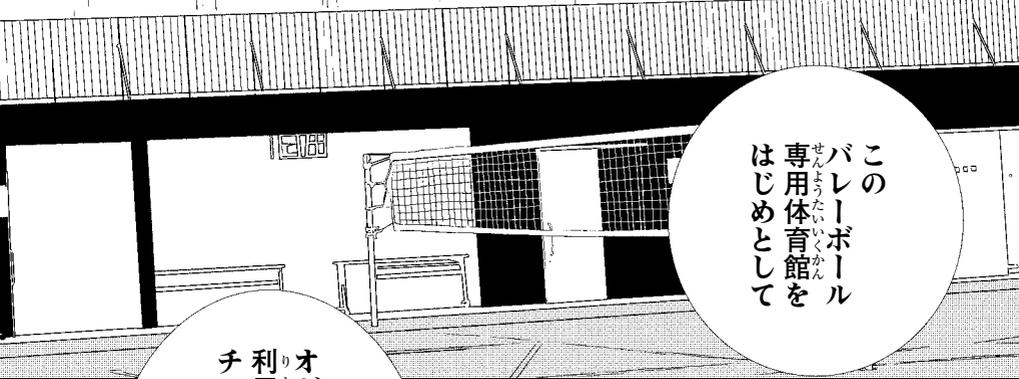
じ...
じゃあ...



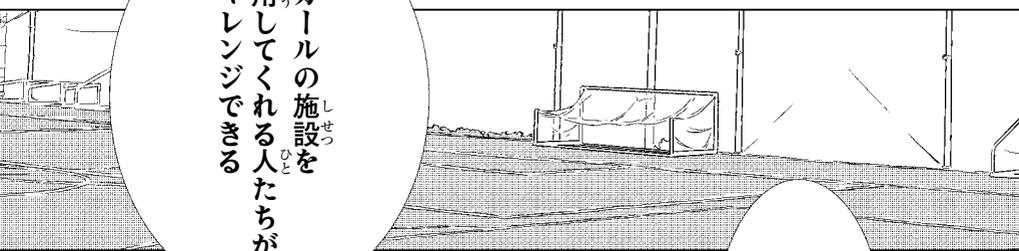
岩手の子って
感情を表に出す子
あんまりいないの

ひろしまけんしゅうしん
広島県出身

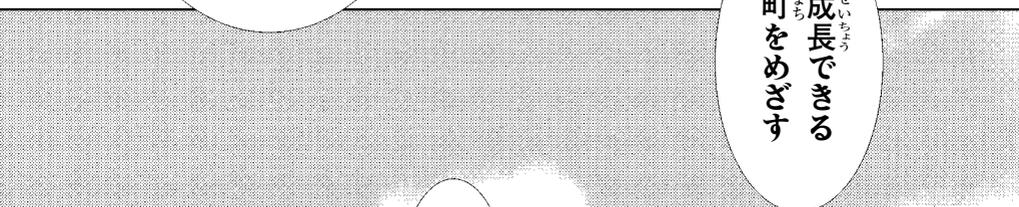
もりおかぜい
盛岡勢



この
バレーボール
専用体育館を
はじめとして



オガールの施設を
利用してくれる人たちが
チャレンジできる



成長できる
町をめざす



それが

オガール
プロジェクト



岡崎さん
はね

今いるこの
オガールアリーナ
とか

他の施設を
造るのに
尽力して
くれてる
人なんだよ

えらい人？

そうだね

「おがる」って
紫波の方言

知ってる？



知って
ます

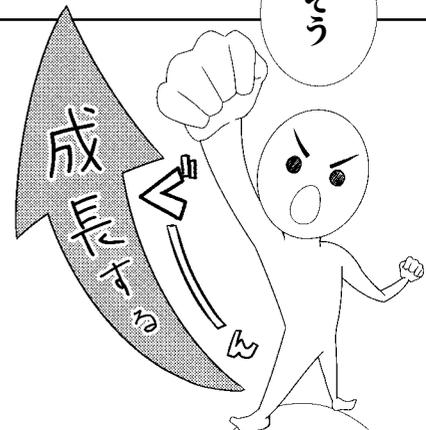
確か…
「成長」!

おばーちゃんが
言ってた!!

そう



紫波中央駅前の
10年以上放置された
土地を



そして
フランス語で
駅を意味する
「Bate(ガール)」
この二つを
あわせて
「オガール」

1997年に
紫波中央駅が開業



駅前の10・7haの土地を
公共施設の整備のため
町が購入



当時の町にはまだ
その余裕があった

まもなく日本経済は
長期の停滞期に突入
自治体財政も
余裕がなくなっていく

結果
なんの整備も
されることなく

その土地は
放置されて
いた



そして
11年後の
2008年

公民連携で
駅前の土地を
整備する？

はい

まちづくりを
民間で
やるんです

この頃
故郷の紫波町に
戻っていた岡崎が
声を上げた



岡崎は
地域振興整備公団
(現・都市再生機構)で
働いていたキャリアを
もつ

そして全国の
再開発事業の現場を
見てきた経験から
行政が主導の
まちづくりに限界を
覚えていた

これからの
自治体の税収は
増えません



国にも
余裕がない

再開発は
自治体だけで
という話になる

その一方で
町民の行政に対する
要望はこれまで以上に
大きくなるはずだ

民間の事業として
成立させる
公民連携手法の
提案だった

よしやろう

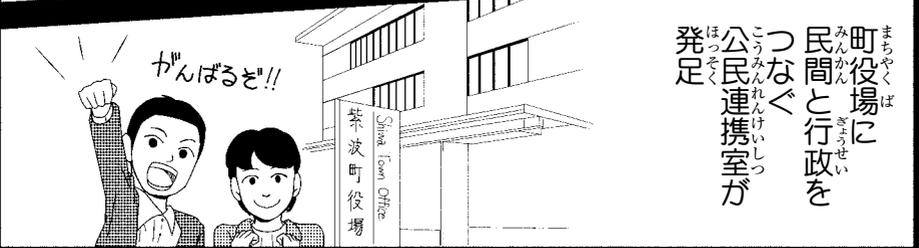




やりましょう

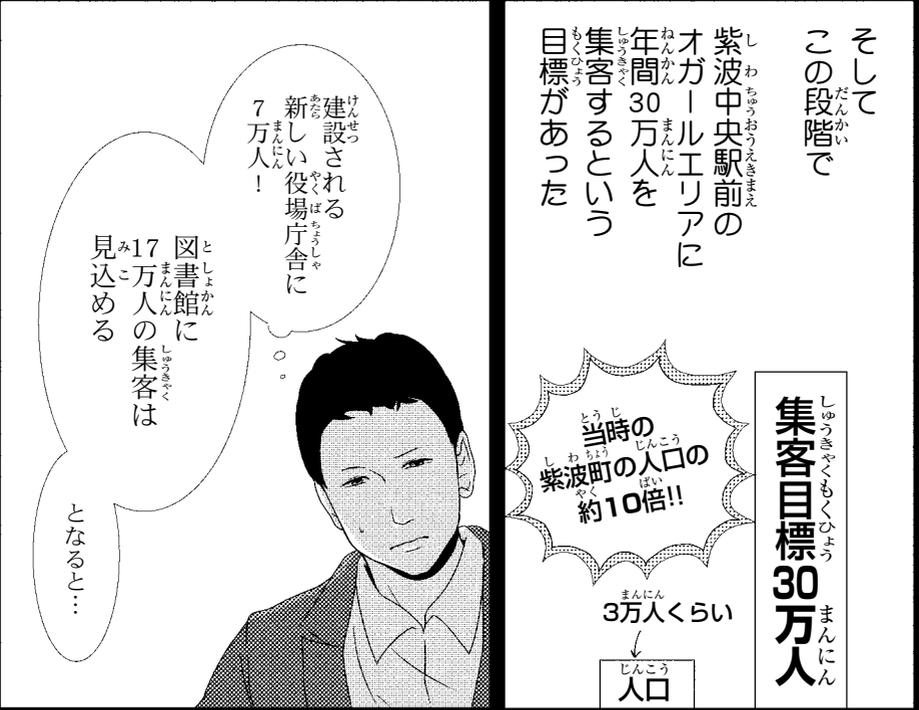
これは後に

オガール
プロジェクトと
呼ばれる
公民連携事業の
始まりであった



町役場に
民間と行政を
つなぐ
公民連携室が
発足

がんばるぞ!!



そして
この段階で
紫波中央駅前の
オガールエリアに
年間30万人を
集客するという
目標があった

建設される
新しい役場庁舎に
7万人!

図書館に
17万人の集客は
見込める

となると...

集客目標30万人

当時の
紫波町の人口の
約10倍!!

3万人くらい

人口



あと
6万人か

うーん...



そんな時...

え

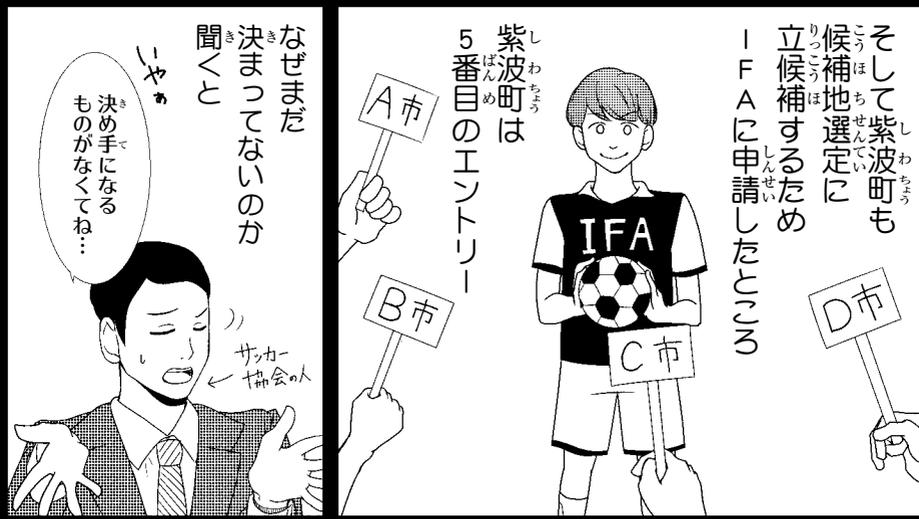


IFAが
フットボール
センターの
候補地を?



IFA(岩手県サッカー協会)が
県内にフットボールセンターを
造る

しかしまだ
場所が決まっていない
という情報を得る



そして紫波町も
候補地選定に
立候補するため
IFAに申請したところ

紫波町は
5番目のエントリー

なぜまだ
決まっていけないのか
聞くと

決め手になる
ものがなくてね...

サッカー協会の人



4月にフットボール
センターが
このオガールで
オープンしたんだ



2011年3月の
東日本大震災を
経て…



それから
迅速に
進みます

紫波町は
他の候補地にない
資金調達と技術的な
具体案を提案

2009年1月
正式に立地が
決まる



*RFQ: Request for Qualificationの略。資格の審査。
*RFP: Request for Proposalの略。(技術にかかる)提案の審査。

このアリーナ
だって同じ

え？

アリーナの
床…

学校の体育館と
違うと思わない？

フ

フ

よん

よっ

サッカーで
いうなら芝

この
フットボールセンターには
当時世界最高の
ドイツ製の人工芝が
使われている

コストは
高いけど
メンテナンスが楽!!

ずっと青々しい!!

言われてみれば…

このアリーナの
天井も…

こういうもの
なんですか？

木材が
むき出し…？

いや

それで
いいんだよ

スポーツ施設に
とって
大事なことは何か

わかる？

大事な
こと？

それは
足元
なんだ

？



フライも怖くない!

ゆか ひまわりおんど
床の表面温度を抑えることができるから

まさつやけど
摩擦火傷も防止できる

アリーナって
聞くと規模が
大きいイメージ
だけど



おあな

オガール
アリーナは
この辺の
小学校の体育館
より小さい

だけど
とにかく床に
こだわった



映像遅延装置

撮影したプレーを
数秒後に画面で
確認できるから

プレーの精度や
チーム力の向上に
つながる



それから...

※フランスで開発された弾性台材。国際バレーボール連盟主催の国際大会等で使用されるコートにも採用されている。

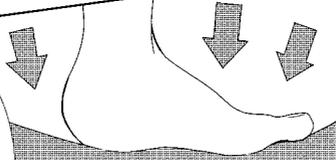


弾力がある?

そうそう



この
床材には
*タラフレックスを
使ってるんだよ



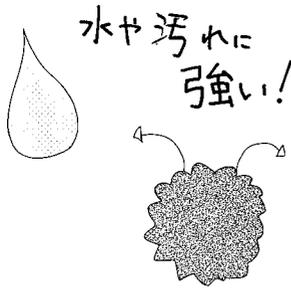
タラフレックス

弾力があるってことは
要はグリップ力で
足元を支えて
くれるし



世界大会とかで
使われている床と
一緒なの

メンテナンスも
簡単



水や汚れに強い!



すげー！…
テンション上がって
きた!!

なあ
ここで練習したら
全国いけたり
するかもよ!?

うしろ



そんなに
甘くないよ

※岡崎建設OWLS 監督
おかざきたかひろ
岡崎希裕

アウルズ紫波スポーツ
アカデミー代表理事
あべみちこ
阿部道子

※紫波町を拠点に活動するバレーボールクラブチーム
(チームメンバーは岡崎建設の社員だけに限らない)。



つまり

プレイヤーズ
ファースト



選手にとって
最高の装置!

バレーなどの
ネットスポーツの
共通点は

ボールを持つことが
できないことだから…



フットボールセンターも
このオガールアリーナも

アスリートを
第一に考えて
施設を造ることが
大事なんだ

限られた資金で
どこに重点を置くか
考えたら芝や床



ヤバイ...
全国とか軽々しく
言っちゃった...

たしかに

アリーナの
環境は
とてもいい



すっかり断熱が
されているから
夏は涼しく
冬は暖かいし

タラフレックスも
体にやさしい



けど
考えてみて

もし他の体育館で
試合をした時

その環境に
対応できなくなる
かもしれない

環境のよさに
甘えない

それを心かけて
練習するよう
にね

はい...!

※NPO法人アウルズ紫波スポーツアカデミー。



えん

阿部先生は
アカデミーの
代表理事を
務めていて

岡崎希裕さんは
正信さんの弟さん

岡崎建設OWLSって
バレーボールチームで
監督をやってるんだよ

岡崎さん兄弟の
中学時代のバレー部
顧問が阿部先生

でもまあ

バレー
専用だから

ネットとか
張りっぱなし
なんで
楽ですけどね



...え
じゃあ

バレー以外の
スポーツをするのに
使っちゃダメなん
ですか？

ん？
そんなことは
ないよ

それなら
.....

どうして
バレーボール専用の
体育館を造ったん
ですか？

バレー専用にする
ことは兄弟で
話したんだ

このアカデミーを
作る際に

恩師の
阿部先生に
相談して

全日本代表経験が
ある綱嶋さんを
コーチに呼んで

思い
返せば…

いろいろ
ありましたねえ…

2011年に
フットボールセンターが
紫波町にオープンすると
全国紙のニュースに
掲載され

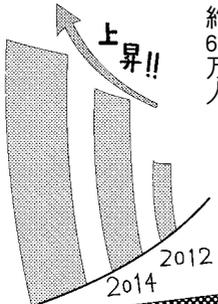
一気に
オガールプロジェクトが
動き始めた

2012年
図書館などの公的施設と
民間テナントが入った
官民複合施設

オガールプラザが
オープン

この時点で
オガールエリアの
来訪者は
約60万人

2015年には
さらに増え
90万人に達した



そして

若者が
挑戦できる
空間を！

町が交流人口増加と
オガールエリアの土地の価値を
高めるために民間事業の
提案を公募した



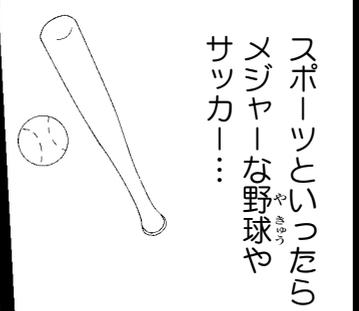


その方針に合った提案として
思いついたのが:

バレーが
いいんじゃないか?



岡崎兄弟に
競技経験があった
バレーボールの
アーリーナを造る
ということだった



スポーツといったら
メジャーな野球や
サッカー...



一方
バレーボールの
場合

市場は小さいが
ライバルは
少ない

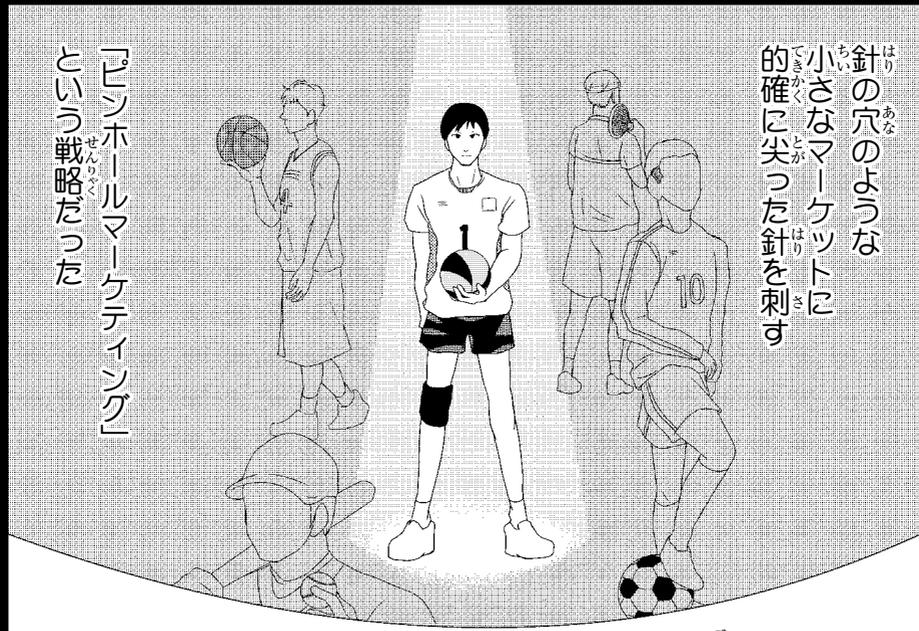


しかし
市場は大きい
ライバル(同業者)も多い



バレー
なら!

これは
日本初の
試みだった



針の穴のような
小さなマーケットに
的確に突いた針を刺す

「ピンホールマーケティング」
という戦略だった



どうして
バレー
なんだ?

町民の
みなさん

そっだ
そっだ
そっだ

この戦略は
当初紫波町内で
反発もあった



しかし小さくとも
バレーボールの市場は
7000億円の規模がある



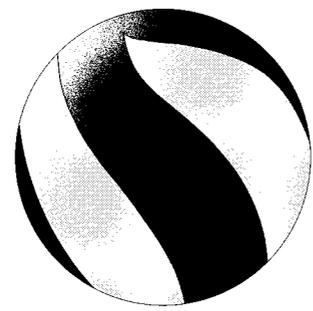
そこには確実に
顧客がいると
考えたのだ



バレーじゃ
なくても
いいんだ



OGAL BASE



バレーボール以外の
目的で使用してもいい
けれど
バレーボール専用
体育館にすることで
人は必ず来る

普通の体育館
ではないことが
肝だった

結果
この戦略は成功
町民が利用する
地域の体育館と
違いを出すことで
全国から
アリーナの利用者が
集つこととなる

そして
ホテル事業
当時の町の
ビジネス
ホテルは
2つ

ビジネスホテル
「オガールイン」の
併設を提案

合宿の利用者や
ビジネスマンが
ターゲット

紫波で働く
作業員が
ターゲット

なぜバレー専用か
なんて訊かれたの
久々だったなあ

あつ…
すみません

いやいや

でもすごい
魅力的って
いうか…

オガールアリーナで
バレーができるって

すごく…
ワクワク
します!!

バレー好きを
みんな!

それに
アカデミーも
あるって知って

そうか…
君たち
中学生?

はい

バレー部に
入ったんですけど
そこまで活発じゃ
なくて…

人数も
ギリギリ試合に
出られる感じで

特に男子は

アカデミーを
設立する際…

第一の目的が
それだったんだ

いま
少子化が進んで
子どもの数が昔と
比べて少ないんだ

学校の生徒数が
少なくなると
部員の数も減る

特に男子バレー部は
部活自体が
なかったりする…

プレーしたくても
できない状況が
現実にあってね

バレーがちゃんと
できる環境を
作って
あげたかった



千葉にいた時
もできる範囲で
指導はしてたの

引退した頃から
人に教えるのが
楽しいって
思ってた…

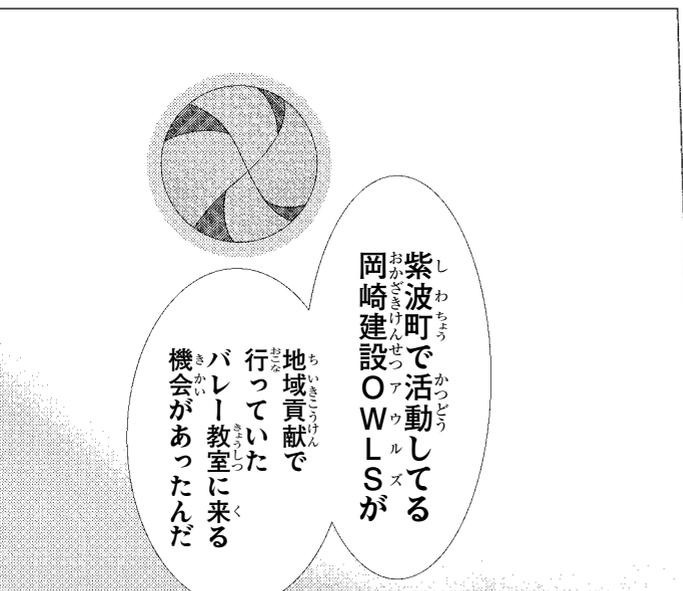


誰かが使って
くれるのを
待つんじゃない

自分たちで使って
しまえばいい

そこで
発足したのが

アウルズ紫波
スポーツアカデミー



紫波町で活動して
おかげでアウルズが
岡崎建設OWLSが

地域貢献で
行っていた
バレー教室に来る
機会があったんだ



岩手に
初めて来たのは…

2011年の
夏だったかな…



当初は
50人から
スタートして

今は
100人以上も
生徒がいるの

すごい
倍だ!!



岩手に
来る前は
千葉に住んで
たんだ

え
ちば!?

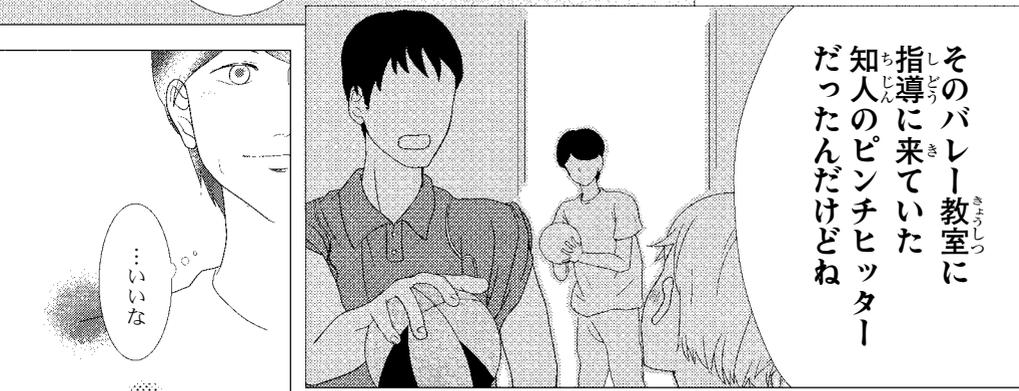


網走コーチは
このアカデミーの
コーチをするために
現役を…?

いやー
現役でプレー
してたのは
2008年まで

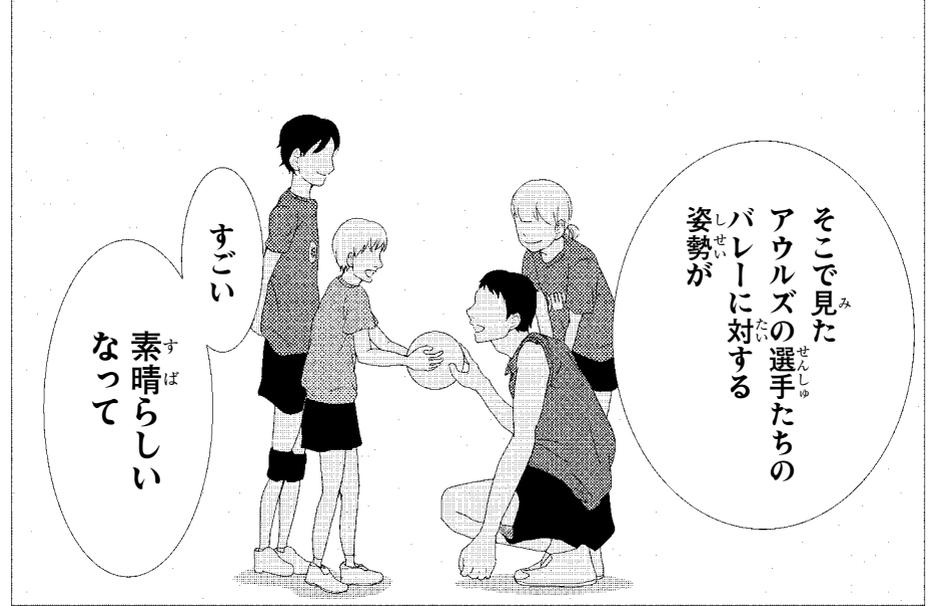
じゃあコーチに
なるために
引越して
きたん
ですか?

そうだよ



そのバレー教室に
指導に来ていた
知人のピンチヒッター
だったんだけどね

…いいな





僕もチームの監督をしてるから

勉強になりますよ

勝つためには
こんな人間性が
必要だってよく
聞いてますから

はいはいはい!!



ブーン



何より綱嶋さんは
勝ち方を知ってる

勝ち方!?



本当は私が行きたいって
思ってたのかわかったのか

家族が背中を押してくれてね

僕たちが行けよ

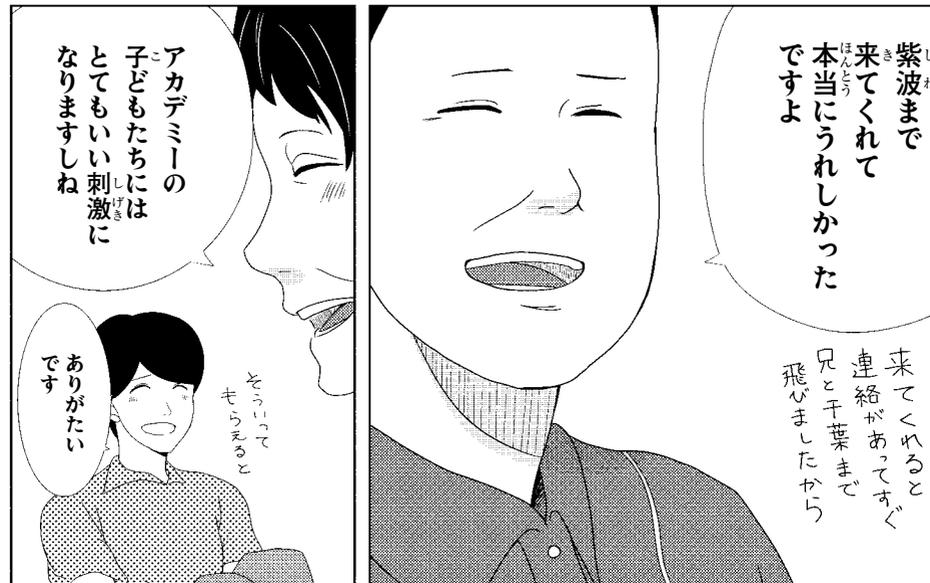
綱嶋さんは

移住するって
決断したの



全日本の
経験もあった

トップリーグで
活躍するチームの
キャプテンを
務めていたし



紫波まで
来てくれて
本当にうれしかった
ですよ

来てくれたと
連絡があつてすぐ
兄と千葉まで
飛びましたから



ありがとうございます

ありがとうございます



「社会体験」も
アカデミーの
一環なんだよ

あと農作業や
ボランテニア
とかね



それは
アカデミーの
活動にある



どんな人間に
なったら
勝てますか!?

人間性ね



バレエをするのに
大切なことって
なんだと思う?

大切な
こと…

やっぱり
技術
身長!!

えっと…



アカデミーって

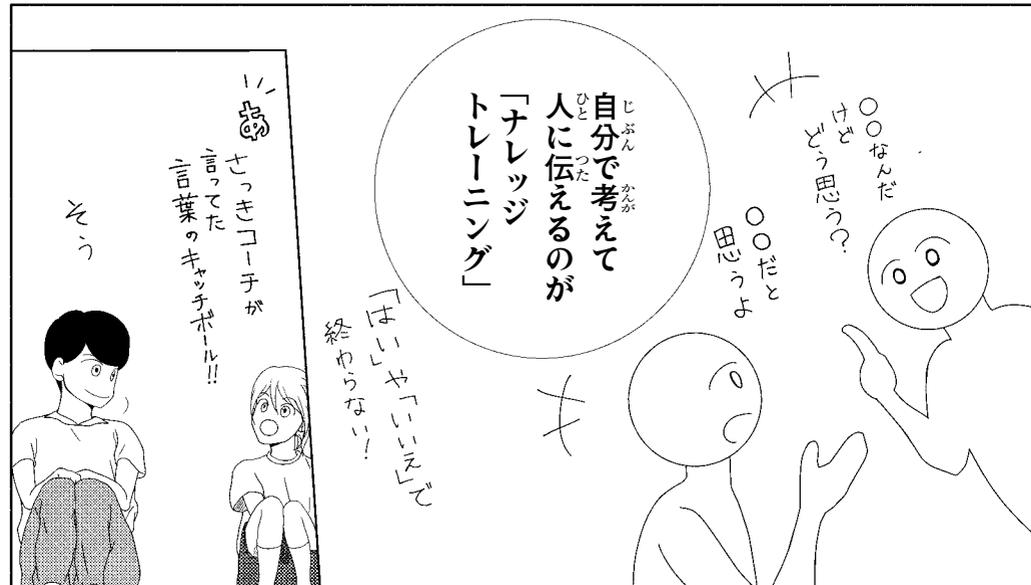
バレエをする
だけじゃ
ないんだ…

じゃあ…



ナレ…?

ナレッジ(知識)
トレーニングや
社会体験に
ヒントがあるん
じゃないかな?



自分で考えて
人に伝えるのが
「ナレッジ
トレーニング」

「はいや」「いいえ」
終わらない!

「さっきコーチが
言ってた
言葉のキャッチボール!!」

そう





あのね



すみませーん



今日って
バレーして
いかないの？



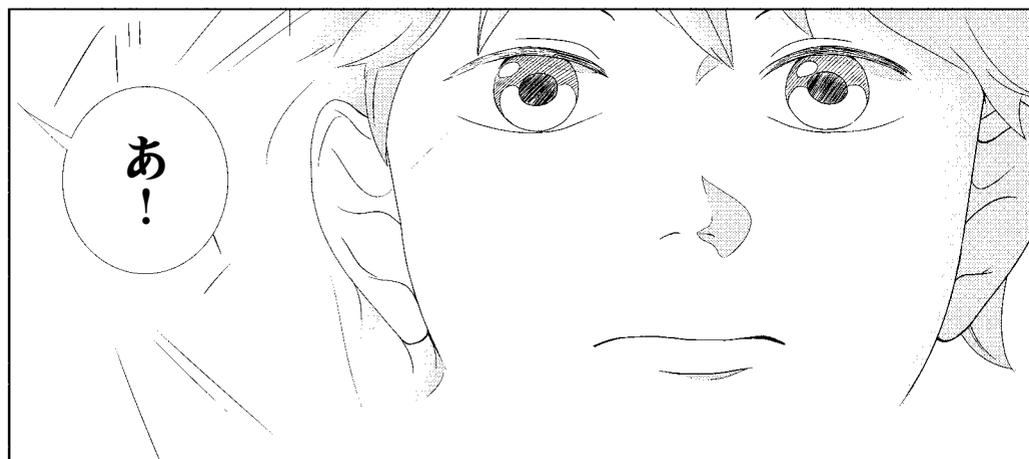
一緒に
やろうよ!!



これから
人生の
大切なことを

バレーを通じて
教わったんだ

中学生の頃に



あ!



やっぱり
うれしいです

子どもたちが
バレーを好きって
言ってくれて…



将来トップで
活躍できる選手が
出てくれたら
もちろんうれしい
ですけど…

それぞれの進路で
リーダー的な役割を
担ってくれたら…

夢であり
今後の
目標ですね



アカデミーでの
経験はきつと
活きますよ



!!

どんな道に
進んでもいい





ここで
見つける



バレーを通じて

せいちょう
成長して
もらえたら



ダメ
なんだ

バレーを
とったら
何も残らない
なんて

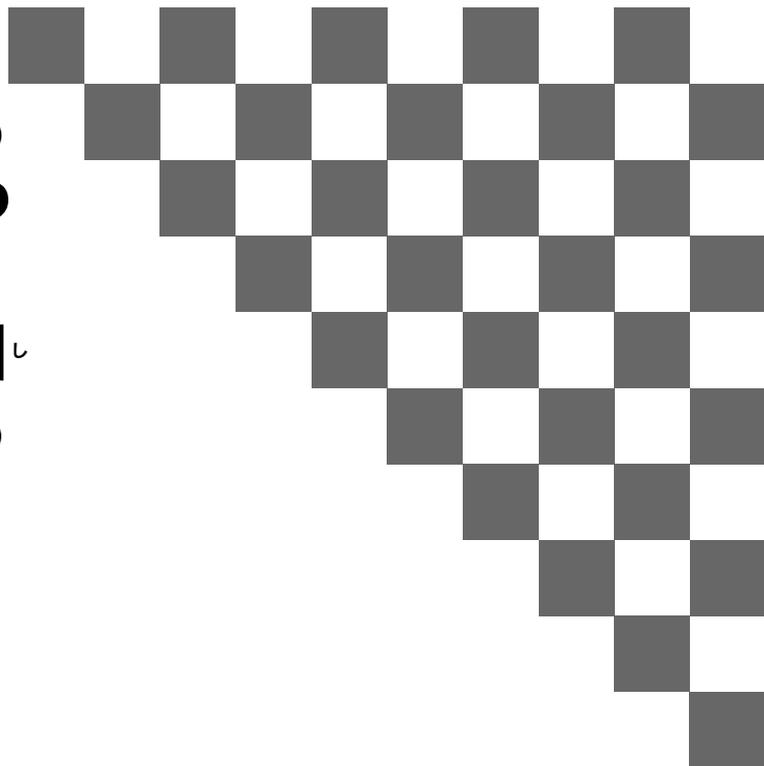


バレーが
大好きでもさ

またねー

オガールプロジェクト

もっと知ろう



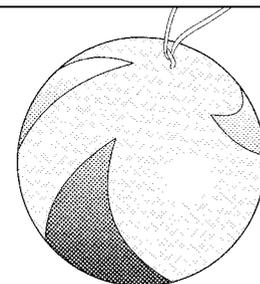
※本編の写真など画像・データ素材はすべて紫波町より提供いただいております。

※掲載内容は、平成29年3月時点での情報を元に作成しています。

オガール
プロジェクトの
成功はまだ先

未来に向けて
オガールの
挑戦は

今も
続いている



紫波町は岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の中間に位置する総面積約二三九km²、人口約三万三五〇〇人の町です。農業を基幹とし奥羽山脈と北上高地の間に広がる盆地でもち米を中心とする稲作が、山際ではりんごやぶどうといった果樹栽培が盛んです。

JR東北本線と国道四号沿いは盛岡のベッドタウンとして宅地化が進んで転入者が増えてそれに伴って大型商業店舗等の出店も増えています。一方、東西の山際は人口減少が進み、農家の後継者不足が心配されています。紫波町という一つの「まち」をとっても、地域にはそれぞれ特性があり、課題があります。一〇〇年後の子どもたちによりよい環境を守り伝えるため、紫波町は二〇〇〇年に「新

請願駅とは、自治体や住民が鉄道会社において願いつくる駅のことで、紫波中央駅は紫波町がJR東日本にお願いしてつくられました。整備費二・七億円は町民からの寄付金でした。用意されました。この駅開業に合わせて、紫波町は六つの公共施設の集約を目的に、紫波中央駅前の土地一〇・七haを二八・五億円で購入しました。しかし、せっかく購入した町有地は、その後一〇年にわたって、ほとんどが



2008年当時の紫波中央駅前町有地

世紀未来宣言」を発表し、循環型のまちづくりに取り組んできました。



一九九八年に紫波町内三番目となるJR東北本線の駅として請願駅「紫波中央駅」が開業しました。

未利用のままとなっていたのです。二〇〇七年当時、町の課題は、この紫波中央駅前町有地の活用と、役場庁舎の建替え、図書館の新設でした。しかし、これらの公共事業を行うたくても、町に財政的な余裕はありませんでした。

紫波町内の建設会社の役員を務める岡崎正信さんが、東洋大学大学院で公民連携を学ぼうと思ったのが二〇〇六年九月。このとき、当時の紫波町長のところに挨拶に来たのが、公民連携事業がスタートしたきっかけです。公民連携とは、この町有地を民間の知恵と資金を活用して事業化を図ろうとするものです。

これまでの公共事業とは違い、企画・構想

二〇一一年四月	「岩手県サッカー協会が設置した人工芝グラウンド。サッカー協会と紫波町、オガール紫波株式会社が協定を結び、事業化を図った。
二〇一二年六月	官民複合施設「オガールプラザ」オープン 図書館や産地直売所、カフェ、医院、学習塾、子育て応援センターなどが入居。
二〇一三年一〇月	「オガールタウン日詰二十二区」分譲開始 紫波町内の工務店が紫波型エコハウスを建築することを条件に、町が直接宅地を分譲。
二〇一四年七月	民間複合施設「オガールベース」オープン バレーボール専用アリーナやホテル、コンビニなどが入居。
二〇一五年五月	「紫波町役場庁舎」開庁 日本最大級の木造庁舎。木質チップを熱源とする地域熱供給を受けている。
二〇一六年一月	官民複合施設「オガールセンター」竣工 医院やペーカリー、こどもセンター、店舗などが入居。
二〇一七年四月	「オガール保育園」開園 定員一五〇名の民設民営保育園

オガールエリアの略年表



岩手県フットボールセンター



オガールプラザ



オガールベース



紫波町役場

5 施設と一緒に事業も起こす

ボールの拠点となり、大会やイベントも行われています。

施設の注目度もさることながら、施設整備に合わせて始まったNPO法人アウルズ紫波スポーツアカデミーの事業が評価されています。現在アカデミー事業では、幼児、U9、U12、U15の四つのカテゴリーに総勢一〇〇人以上が加入しています。そのコーチには、Vプレミアリーグの東レアローズの主将を五年間務め、元全日本女子代表の経験もある綱嶋久子さんが就任しました。

アカデミーは、バレーボールを通じて「将来各分野でリーダーになりうる人材育成を」という指導理念の下、幼児から中学生までの長いスパンで、目先の事に一喜一憂せず、

一人ひとりの自然な成長と目標達成をサポートします。それぞれがアカデミーでの経験や成長を各学校にもち帰って、岩手県のバレーボールのレベルアップに貢献し、全国で堂々と活躍できる岩手県代表となる人材の育成を目指しています。

さらに、合宿を誘致するため、岡崎正信さんは県内外の中学・高校の指導者に、弟の希裕さんは大学やVリーグに、それぞれオガールアリーナの営業活動を行っています。併せて、アカデミーのチームが強くなるよう練習試合を組み、中学生対象のU15は、岩手県から唯一、全国トップレベルのチームとの練習会に参加できるようにしています。

岡崎さんの家業である岡崎建設株式会社に岡崎建設OWLSという男子クラブチームがあります。このチームはオガールアリーナができた二〇一四年の全国クラブ選手権で初

1 ラグビー合宿の聖地へ 北のスポーツ基地網走

北海道網走市

ソウル五輪の事前合宿をきっかけに、ラグビーを中心にスポーツ合宿で地域活性化することを決めた網走市。合宿の受入れ要請やグラウンド整備に職員は奔走する。今では合宿の聖地となり、グラウンドは“日本一の芝”と言われるまでになったその理由とは…

2 日本初のバレーボール専用体育館・オガールベース

岩手県紫波町

スポーツを通じて次世代のリーダーを育てる。公民連携で駅前のにぎやかな遊休地が生まれ変わった。マルシェ、図書館、医院、学習塾、スポーツ施設などが集積。人口3万人の町に今、年間90万人が訪れる。「バレーボール専用体育館」を建てた狙いと、そこに込められた想いとは…

3 バスケットで秋田を元気に

秋田県

大学進学で秋田に来た水野は県民のネガティブ思考に愕然（がくぜん）とする。そんな秋田を“スポーツで元気に”とプロバスケットチームの設立に向けて水野は走り始める。否定的な意見もある中、「動けば変わる！」と仲間と活動を続ける水野。果たして秋田の未来は…

4 世界が注目するアウトドア天国・みなかみ

群馬県みなかみ町

バブル崩壊で温泉客・スキー客が減少。観光の町・みなかみの経済は活気を失う。そんな中、利根川源流の自然環境の価値に一人のNZ人が気付く。「ここは世界に通じるアウトドア天国になる!」。彼の狙いどおり外国人客は来るのか…

5 市民が主役の交流拠点・アオーレ長岡

新潟県長岡市

アリーナを含む公民一体型スペース。長岡市の活性化のため誕生した新交流拠点「アオーレ長岡」。スポーツやコンサート、市民発のイベントが多数行われ、運営を担うなおか未来創造ネットワークは「市民のやりたいこと」の実現のため奔走していた。そんな中、アリーナが新潟アールビレックスBBの本拠地に決まり…

6 サッカーで地域を盛り上げる

長野県松本市

平均13000人を超えるJ2では驚異的な入場者数を誇る松本山雅FC。老いも若きもスタジアムに集い、スタンドが緑に染まる。“サッカー不毛の地”長野県の一地方都市で、なぜこのような奇跡が起こったのか。そこには男たちの熱いドラマがあった。

7 マリンスポーツでまちおこし

三重県熊野市

新たな観光誘客のため、熊野マリンスポーツ推進委員会が穏やかな新鹿湾や熊野灘の絶景を活かし、SUPやシーカヤックを楽しむまちづくりに挑戦! 熱意と地域愛を武器に、各所への協力要請、天候との闘いを経て、ついにビーチ・マリンスポーツフェスティバルが開催となるが…

8 「自立と連携」スポーツを核に地域に雇用を生む

島根県出雲市

スポーツを振興し、地域スポーツを支える組織をめざして2000年より活動開始。でもスポーツだけではなく、大事なのは「地域づくり」!。「自立と連携」をキーワードに、地域を元気にする事業を幅広く展開。スポーツを核に20人もの正職員を雇用するNPOに。

9 瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会

愛媛県

「しまなみ海道で国際サイクリング大会をやる!」「高速道路を通行止めにして…」前例のないイベント開催を命じられた県庁職員の奮闘が始まる。国内外から多くの観光客・サイクリストが訪れる契機となったサイクリング大会の経緯を描く。

10 Japan Open 飯塚国際車いすテニス大会

福岡県飯塚市

車いす使用者がスポーツを行うことに、まだまだ理解が得られなかった1980年代。そんな風潮に敢然と立ち向かった男たちがいた。彼らが社会復帰のリハビリのために採り入れた車いすテニスは、やがて車いすテニス世界6大会の一つ、Japan Openへと発展していく。

11 スポーツコミッションで合宿誘致

佐賀県

「スポーツコミッションを立ち上げる!」。知事から新たな指令が下った。フィルムコミッションからの異動を命じられた県庁職員。知名度の低い佐賀にスポーツ合宿を誘致する…。新たなミッションに、彼は応えることができるのか。

12 大分国際車いすマラソン大会

大分県

「別大マラソンに参加したい」。車いす使用者の訴えは聞き入れられなかった。ならば…。「世界初の車いす単独マラソン大会」の実現を目指して一人の医師が立ち上がった。彼の熱い思いはやがて世界最高峰の車いすマラソン大会へとつながっていく。

6 まち人オガール

二〇一六年一月、オガールセンターが完成し、二〇一七年四月に民設民営の「オガール保育園」が開園しました。これにより、大規模な施設整備は一区切りとなります。公民連携に取り組んで一〇年の歳月が経ち、目指してきたまち並みが整います。二〇一五

優勝を果たしました。二〇一六年のいわて国体においても、OWLSの選手が主力となり、四位という成績を勝ち取りました。地元企業や学校で働く選手たちは、アカデミーのコーチでもありません。岡崎さんが中学生の時の恩師である阿部道子さんがクラブチームの監督を長年務めるとともに、アカデミーの代表も兼務しています。ここには二〇年以上にわたる師弟の絆があります。

年には、この地に九万人もの人々が訪れました。塩漬けの町有地と言われた土地でオガールプロジェクトを推進できたのは、町長や岡崎さんの一貫した覚悟と、時代に適合した柔軟な判断をしてきたからこそと言えます。PPエンジニアメントがいて、民間の投資家がいて、まちが出来てきました。これからの時代に「適合したコト」を創造し続けていくことが官民の双方にとって、また、これからの施設整備にとって重要なテーマだと言えます。紫波町とオガールが持続的に発展していくために、地域資源を生かしながら、地域と人をつなげていく必要があります。

ほんさつし せいさくきょうりよく 本冊子の制作協力にあたって

日本生命は、「スポーツの力で地域を元気にしたい!」という
スポーツ庁の思いに共感し、この『スポーツによる地域活性化ま
んが事例集』の制作に協力しました。

毎日の部活を頑張るあなたも、同級生の活躍を願うあなたも、
地元のクラブチームを支えるサポーターやスタッフも、みんな
知っているはず。

スポーツをする人、応援する人、支える人の思いが繋がって、
みんなが心を躍らせる瞬間が湧き起こることを。

このまんがを読まれた方々が、スポーツの力をかりて地域を支
えようと頑張る人たちの思いに共感し、あなたの、そして地域の
未来を切り拓いていくきっかけとなれば幸いです。

日本生命は、生命保険会社で唯一の「東京2020オリッ
ク・パラリンピックゴールドパートナー(生命保険)」として、
『Play,Support. ～さあ、支えることを始めよう。～』をスロ
ガンにスポーツを頑張るすべての人と、それを支えるすべての人
を応援しています。



TOKYO 2020
OLYMPIC GAMES



NISSAY



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

東京2020 ゴールドパートナー(生命保険)



生 28-H-3897, 業務部

●作画

小野花奈

●作画指導

今野昌浩

総合学園ヒューマンアカデミー仙台校マンガカレッジ

〒 980-0021 仙台市青葉区中央 3-1-22

TEL.022-712-7035

<http://ha.athuman.com>

●取材協力

岡崎正信、岡崎希裕(オガールベース株式会社)

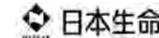
阿部道子、綱嶋久子(NPO 法人アウルズ紫波スポーツアカデミー)

嶋誠、太田久美子(公益社団法人 岩手県サッカー協会)

鎌田千市、ハワードさおり(紫波町)

●制作協力

スズキ株式会社 日本生命保険相互会社



●編集協力

大日本印刷株式会社 株式会社ダーコシ

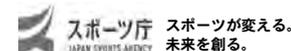
●表紙デザイン

hive

まんが スポーツで地域活性化 vol.2

日本初のバレーボール専用体育館・オガールベーススポーツを通じて次世代のリーダーを育てる(岩手県紫波町)

企画・監修



参事官(地域振興担当) 付

〒 100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

TEL. 03-5253-4111 (代表)

<http://www.mext.go.jp/sports/>

寄贈元 スズキ株式会社 日本生命保険相互会社

印刷 大日本印刷株式会社

© スポーツ庁 2017 Printed in Japan

公民連携で駅前の遊休地が生まれ変わった。
マルシェ、図書館、医院、学習塾、スポーツ施設などが集積。
人口3万人の町に今、年間90万人が訪れる。
「バレーボール専用体育館」を建てた狙いと、
そこに込められた想いとは…